
ren-ai ~ 本当の気持ち ~

hiro-ka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ren - ai 〽 本当の気持ち

【Nコード】

N2962B

【作者名】

hiro - ka

【あらすじ】

私が高校3年生の時から22歳までの、5年間の恋愛のお話です。たった5年。だけど色々あった5年。ある『きっかけ』があり、自分の気持ちに気付く。その『きっかけ』とは…

恋愛

自分の恋愛を書こうと思いました。

『自分の気持ちに正直にならなければいけない』
と痛感した恋愛をしたからです。

この作品を読んで頂いて、

恋愛を楽しんでいただければ幸いです。

きっかけ

高校3年、春。

高校入学直前に彼氏が出来た。

だけど高校入学して間もなく自然消滅してしまった。

それから気付けば2年も経った、高校最後の年。

『出会い系サイト』が流行っていて、私もよく利用してた。

けど、彼氏探しが目的ではなく、遊び友達探しが目的。

正直、彼氏は欲しかったケド、女友達と遊んでる方が楽しかったし、中学3年からサッカーにハマってて、

3度の飯よりサッカーが好きな、サッカーバカだった。

そんなある日、いつものように学校の最寄り駅で友達を待っていたら、

開口一番、『昨日サイトでなあ、ユースの子捕まえた〜』
って自慢気に教えてくれた。

ユースとは、色々なチームの下部組織で、

高校生はユース、

中学生はJr・ユース、

など呼び方は様々。

だけど友達がサイトで知り合った彼は、
私が好きなチームのユースの選手。

友達に『絶対繋げといて!』って即答。

と言うのも、そのユースチームに私が好きな選手が居て、あわよくば紹介してもらおうという魂胆。

彼は当時、高校2年生。

名前ぐらいは知ってたけど、仲良くなるつもりもなかった。

ある日、サッカーの試合帰りに友達が彼と競技場で待ち合わせ、初対面。

私もその場には居たけど、あえて少し離れた場所から二人の様子を拝見。

プリクラを交換しただけだったけど、このプリクラを見て彼は3人の女の子を指名して紹介して欲しいとの事。

その中に…私が居た。

気持ち

彼とのメールが始まった。

毎日毎日朝から晩まで一日中。
もちろん授業中も。

それから数週間後、遊びに行こうってなって、初めて遊んだ。

大阪駅ホームで待ち合わせ。

私は彼の顔見たコトあるケド、彼は写メの私しか知らない。

気付いてもらえなかったら帰ろう。

そう思ってたのに、あっさりとわかってくれた。

俗に言う、初デート。

だけどお互い高校生だからそんなにお金もナイ。

結局、ショッピングビルの人気のナイ階段に座ってお喋り。

滅多に人通らないし、二人きりの空間。

初めて彼と遊んだのに初めてキスした。

「遊び慣れてるなあ」

これが私の第一印象でした。

でもなぜだか、悪い気はしなかった。

それから…

ユースの練習見に行った帰りは一緒に帰るし、週1回ある、練習がオフの日は遊んでた。

私が、同じユースの男の子を紹介して欲しいって言った時も、快く紹介してくれて…

逆に、これは付き合ったりとかはナイな。って確信に変わってた。

だけど変わっていたのはそれだけじゃなかった…。

変わったのは私の心。

彼に惚れてしまっていた。

彼には彼女がいたと思う。

未だに本当のところはわからないけど…

遊びに行く時は絶対に手を繋いで歩いてた。もちろん、付き合ってるわけじゃないけど、それが当たり前になってた。

もちろんキスもいっぱいした。プリクラ機の中、階段など人気のナイ所はもちろん、駅のホームとかでも。

でも全然恥ずかしいとは思わなかった。

好きだって気付いてカラは、一緒に居てくれるだけで幸せだったし、嬉しかった。

相変わらず、ほぼ毎日のメールも続いてた。

初

ある夏の日。

初めてミナミに行った。

理由は…ホテルに行くため。

私は高校3年だったケド、SEXはまだ未体験だった。私は彼が好き。

だけど付き合っていない。

初めてだし…やっぱ彼氏が出るまで、初体験は大事にするべきか。散々悩んだ結果、やっぱり踏み切りが付かず、ホテルには行けなかった。

数日後、再びミナミ。

結局、何時間も説得されて…負けてしまいホテルへ。

初めてのSEX。

でも、後悔はしなかった。

どちらかと言うと、後悔なんて言葉自体が出て来なかった。

だけど、相変わらずお互いに付き合う雰囲気はなかった…。

彼は遊ぶ時に手を繋がず、キスもしないコトが何回かあった。

おそらく、その時は彼女が居たんじゃないかなって思う。

逆に言えば、なかなかわかりやすい人だった。

だけど、それでも良かった。
彼自身は何にも言って来ないし、敢えて聞くコトもせずに、
自分のヤキモチと葛藤していた。

秋、相変わらずのペースでのデート。
練習前、練習後、オフ。
少しでも時間があれば遊んでたと思う。

ある日、Jリーグを見に行ってた私と、試合と同じ時間に練習をしていた彼と合流して梅田へ。
だけど私は翌日に大学入試を控えてて、不安な気持ちを隠しきれなかった。

そんな状況の中、彼が二つの小さな、紙で出来た袋を出して来た。
「どっちがいい？」

彼が言う。
「だけど私は全然意味がわかんなくて…
キョトンとして」と彼が、
「選んで」
って言う。

とりあえず片方を指して、
「こっち」
って言い中身を出すと…
サッカーしてる子が足や腕に付けたりしていた一本の紐だった。
私のは青で彼のは赤。

「明日コレ付けて、受験頑張ってな！」
感動した！

たかが私の受験やし、一言頑張っって言って終わりだろうって思

ってた。

なのに、御守りのプレゼントをくれた。

翌日、もちろん、前日に貰ったプレゼントを身につけて受験に挑み、無事に合格した。

あの時、彼からパワーを貰った気がした。

私は彼が好き。

だけど付き合っではない。

初めてだし…やっぱり彼氏が出来るまで、初体験は大事にするべきか散々悩んだ結果、やっぱり踏ん切りが付かず、ホテルには行けなかった。

数日後、再びミナミ。

結局、何時間も説得されて…負けてしまいホテルへ。

初めてのSEX。

でも、後悔はしなかった。

どちらかと言うと、後悔なんて言葉自体が出て来なかった。

だけど、相変わらずお互いに付き合う雰囲気はなかった…。

彼は遊ぶ時に手を繋ぐず、キスもしないコトが何回もあった。

おそらく、その時は彼女が居たんじゃないかなって思う。

逆に言えば、なかなかわかりやすい人だった。

だけど、それでも良かった。
彼自身は何にも言って来ないし、敢えて聞くコトもせずに、
自分のヤキモチと葛藤していた。

秋、相変わらずのペースでのデート。
練習前、練習後、オフ。

少しでも時間があれば遊んでたと思う。

ある日、Jリーグを見に行ってた私と、試合と同じ時間に練習をしていた彼と合流して梅田へ。
だけど私は翌日に大学入試を控えて、不安な気持ちを隠しきれなかった。

そんな状況の中、彼が二つの小さな、紙で出来た袋を出して来た。
「どっちがいい？」

彼が言う。

「だけど私は全然意味がわかんなくて…」

キョトンとしていると彼が、

「選んで」

って言う。

とりあえず片方を指して、

「こっち」

って言い中身を出す…

サッカーしてる子が足や腕に付けたりしていた一本の紐だった。

私のは青で彼のは赤。

「明日コレ付けて、受験頑張ってな！」

感動した！

たかが私の受験やし、一言頑張っって言って終わりだろうって思ってた。

なのに、御守りのプレゼントをくれた。

翌日、もちろん、前日に貰ったプレゼントを身につけて受験に挑み、無事に合格した。

あの時、彼からパワーを貰った気がした。

高校卒業、大学入学

私は彼より一歳年上。

だから一年早く大学に進学するコトになる。

だけど入学時期、彼のコトが更に好きになっていた。

だけど…問題があった。

私は告白をした事がなかった。

それに、根性ナシ女。

だけど年明けから遊ぶ回数も激減。

私が彼の練習を見に行った日は一緒に帰って遊ぶ。

これは相変わらず続いたケド、彼の練習がオフの日に遊ぶ回数は確実に減っていた。

何とか気を引きたかった。

離れたくなかった。

ひよんな事から彼の友達があたしの事を気に入ってくれた。

何回か遊んだりしたケド…何か違った。

すごく優しい人で、何も問題はなかった。

告白もされた。

正直迷った。

この人と付き合って、彼のコトは忘れようと思った。

彼にも相談してみた。

止めて欲しかったんだと思う。だけど…

「アイツは友達やし、付き合っんなら身を引くよ」

身を引くって何？

結局、私達ってどういう関係？

わからなかった。

でも、彼に遊ばれてるのは痛感した。

だけど…彼の友達の告白はお断りしてしまった。
でも、私はこの冬、彼を忘れさせてくれる恋をした。
地元の人。

付き合った期間はたったの2ヶ月。

だけど彼への思いを断ち切れる恋だった。

この間も彼と遊んだりしたケド、今までとは明らかに気持ちが違っていた。

だけど…フラれて、最初に弱音を吐いた相手は、彼だった。
無意識に彼を頼っている自分がいた。

私は卒業テストに引つ掛かったものの、
補習を受け、無事に高校を卒業した。

心機一転、大学生活はenjoyしようと思っていた。

元彼への思いは断ち切れずに居た。

まずは片付けれるコトから…。

「私あんたのコト好きかも（笑）付き合うとかそーゆうのじゃないけど…なんか好きみたい。あつ、返事はいらんから」

すっごい中途半端な告白だった。

だけど、元彼への思いを引きずる私には彼への思いを引つ張り出して紛らわすしかなかった。

でも実際、彼のコトを諦めきってなかったただけなのかもしれない。
だけど、私は全てに整理をつけたつもりで大学に進んだ。

大学に入ってから、元彼を引きずっていた。

色んな男の子からのお誘いはあった。
だけど、誰とも付き合えなかった。

5月、久しぶりに彼と遊んだ。
めっきり遊ぶ回数が減った。なんてモンじゃなかった。1ヶ月1回会うぐらいになってた。もちろん、私が練習を見に行くカラ会えて

るだけで、オフに遊ぶコトはほとんどなかった。
きっと彼に新しい女が出来たんだろう…そう思っていたし、ヤキモ
チ感はないけど、独占欲は減っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2962b/>

ren-ai ~ 本当の気持ち ~

2011年1月16日01時02分発行